

## 新しい「ふるさと」の在り方～ゆるい関係性ができる場～

チーム「Are You?」(鮎)

～あなたは、どう生きていますか?～

多田 路央・九州財務局 山内 美紀・tent 山本 俊一郎・熊本市役所

はじめに

ふるさとと聞いて、何を想像するだろうか?

「ふるさととはどのようなイメージですか?」というインタビューを行った結果、以下のような回答があった。

- ・実家
- ・生まれ育ったところ
- ・幸せに楽しく暮らしていたところ
- ・子どもたちと過ごした場所
- ・なんとなく戻ってきたい場所
- ・ママがいるところ
- ・支えてくれる人がいる場所
- ・友達が帰ってくれば集まれる場所
- ・なんとなく思い出がなつかしくほっとする場所

など人それぞれではあるが、具体的に想像できる風景が思い浮かび、またとても大切だと思えるところではないだろうか。

しかしながら、昨今、生活形態の多様化による少子高齢化による人口減、経済環境とくに雇用機会の不足および、地震など災害による人口の流出、担い手・働き手不足などによる結果、「限界集落」「消滅可能性都市」などという言葉が広く聞かれはじめ、ふるさとそのものが無くなるかも知れないという現状が現実味を帯びてきている。

よって、そのような大切なふるさとを無くさないようにすることが、私たちの責務であると思う。

そこで、なぜこのような状況になったのか、課題を検討し、対応策を考える。

解決すべき課題

まず、1つ目に人財の流出があげられる。「ここには何も無いから、自分と同じような苦勞をさせたくないから、都会に出て行き仕事をしてほしい」という考えで育てられた人々は、その教えを守り、都会に出て行きました。人財が出て行ってしまふことによつて、社会減となり、人口が減少した。

2つ目に、働き手不足があげられる。何かをするためには、必ずたくさんの人々の力が必要であるが、都会に働き手が出て行つたため、働き手が不足することにより、地域内行事の企画運営や実施が出来なくなり行事が、廃止され、また、地域内の交流も不活性化した。

3つ目に、お金の流出があげられる。本来その地域で、地元企業に就職し働き、得た金銭などを消費し流通させるはずだったが、人の都会への移動と同時に都会に流れてしまい、その地域内の経済が悪化した。

#### 具体的提案

3つあげた課題はいずれも関連性があると思われる。働き手がその地域内にて雇用され、都会に流出せず、不足せず、地域内において経済を活性化させるには、人間関係（信頼関係・近助共助）の再構築が必要であり、その地域に何かしらの関係を持ってもらえ、活動できるような関係人口を増やすことが最良の政策・手段だと思う。

そこで、移住定住の解決策と言われている「UIターン」に加え、「MWターン」という施策を具体的対応策として提案する。

「MWターン」とは、「もっとワクワクターン」の意味で、「MW」の文字下部が、「居住地」で、上部が「地域（ふるさと）」というイメージである。「M」だと「居住地」が多く、「W」だと「地域（ふるさと）」が多く、ちよくちよく帰っている・行っている。その地域（ふるさと）と居住地を往復することによって、継続して訪れることにより、ゆるい関係性が構築される。

ゆるい関係性だと取りつきやすく、自分が気に入れば継続するし、持続性にも繋がると思われる。また、もともと地域に住んでいる人々とも関わり合い始めると、地域外から訪れる人と地域内に住んでいる人がお互いに、おたがいさま、思いやり、共助といった心の変化も少しずつ芽生え、次第に大きくなり、地域内の活性化にも繋がると考える。もしかすると、移住定住に繋がる可能性もある。

#### 具体的事業

人口流出については、地域に住んでいる大人自身がまず一番に、自分たちの住んでいる地域に存在している資源を再確認し誇りを持つとともに大切に、他者を受け入れられるような柔軟性を持つとともに、子どもたちが、地元、住民、企業との交流によって知り、地元で働きたいと思う事が出来るような取り組み、イベントを企画する。地元の企業、地域の人、商店の方々が教えて頂けるような地域の商品を売るようなイベントを企画から運営まで一連の流れに携われるような経験をさせることが出来るような事業を行う。

また、子どもたちを、いったん地域外に出ても、帰って来たくるように子どもの頃、参画したり参加した祭り、子ども劇団などの文化、伝統芸能を大切に、地域外で幅広く学んだ知識を活用して地域に対して貢献したいと思わせるような想い、郷土を大切にするような想いを持ち続けられるように育てる。

働き手不足について、都会では経験したくても出来ない区役など地域においては必要だが、少人数では重労働となるような地域ならではの課題となっている行事について、興味をそるよう広報し、想いのある労力のふるさと納税を行って頂くことによって働き手を確保する。平日は、本業でボランティアに時間を割くことが出来ないが、週末には時間があり興味があり、地域においては働き手不足で出来ない課題となっている事業を、ボランティアでもやってみたい活動と捉えている人々と

の要望との擦り合わせを行う。週末ふるさと、週末農作業、週末学校などを推進し、週末人口を増加させる。

財源不足・流出については、地域において現在ある資源を再確認し、生産物を活用し地産地消を推進するとともに、学校給食にも積極的に地域の食材を利用することによって、地域外に財源を流出させないような仕組みを構築する。今後増加と思われる買物難民などについても、地域内外問わずICTを活用し、情報を発信し、要望を地域外において対応可能な人々とのすり合わせを行い、関係性を深め、ひとつの行動に対するポイント制などを実施し地域通貨として利用出来るような地域経済基盤を整備する。

また、地域に帰ってきたり、やってきたりした時に、その地域における関係性があることにより、コンビニではなくその地域の商店などにおいて積極的に購入・消費などの経済活動を行うことを推奨することによって財源を確保する。

#### まとめ

地域(ふるさと)において、地域内だけで閉じられた生産加工流通消費活動が完結し、楽しく幸せに暮らせるように収入が得られるような仕組みを構築する。また、再度訪れたい、あの人に逢いたいと思わせるような出逢い人間関係の構築が出来るような取り組みを行う。そこに行くことによってしかできない得意な取り組みを経験できる、自主的に知識・技術の修得、および楽しい経験が出来るボランティア的ふるさと納税活動すなわち想い・愛があり、お金ではない一緒に汗をかく労力の奉仕により、ゆるい関係性ができる場(新たな地域コミュニティ)が構築されることにより、その場が新たなふるさとと感じ、移住定住ではない新たなふるさとの在り方が創設される。